

妊娠後期の方へ。ワクチン 優先接種の活用を

2021.08.28

第5波と言われる新型コロナウイルス感染症の急激な拡大を受けて、連日数千人単位での新規感染者の報告が続いています。その中であって妊婦さんが新型コロナウイルスに感染する事例も数多く報告されています。

アメリカ疾病対策センター(CDC)をはじめ、日本産科婦人科学会などの学術団体は、妊娠の時期を問わず、ワクチンを接種することを強く推奨しています。本市では、感染すると重症化し易いとされる妊娠後期(28週以降)にあって、早期にワクチン接種を希望する妊婦の方のために別枠で接種体制を構築し、該当する方には妊娠届に基づいて通知が送付されています。

本市では住民接種用に配分されるワクチン量が、9月中には大幅に削減される見込みです。このため接種能力自体は十分に確保されているにもかかわらず、接種の予約枠を大幅に削減せざるをえない状況にあります。案内状が届いた方は、この優先接種の機会を活用することを検討してみてください。なお、今回の接種では現在品質に懸念が持たれているワクチンとは異なる(m-RNA)ワクチンを使用する予定です。

(文責：感染症担当 永野 敦)